Nepal 08

ネパールを知っていますか？ 日本を知っていますか？

福井　智史
国立高松工業高等専門学校

◎実践教科等／ホームルーム（キャリア概論）　◎対象学年／高校2年生・3年生
◎時間数／3時間　◎対象人数／81名

ココがポイント　教えるテーマが明確で、対象の生徒にとって、将来につながる話題を切り口としている点が素晴らしかった。写真を用いた比較形式でネパールの事を紹介していく方法はとてもわかりやすい。

カリキュラム

【実践の目的】○日本とネパールを比較することによりネパールの実情を知り、ネパールだけではなく世界中の文化が持つ多様性と共通性を理解する。
○様々な国際協力活動を知り、国際協力活動への理解を高める。
○経済あるいは技術支援の成果と問題点を理解し、本当に求められている支援について考える力を身に付ける。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	**ネパールと日本を知る** ネパールの写真からネパールの暮らしと文化を知る	『どれがネパール？』と題してネパールで撮影した写真と、日本やタイ、中国で撮影した写真を国名を伏せて比較提示し、下記の各項について理解を深める ・提示項目（住居、交通機関、食事、トイレ、宗教、農業、教育、公共施設、衛生）	・パワーポイント
2	**ネパールの水事情を知る** ネパールの水事情、国際協力の状況、技術協力のあり方について理解する	①ネパールと四国各県の水事情を比較し、ネパールの緊迫した生活用水の状況を知る ②日本の協力によりネパールで実施されている水道支援事業とその成果を知る ③今後日本がどのように支援すべきか、その形態を考える	・パワーポイント ・各自が記入する授業報告書（資料1）
3	**技術者像を考える**	将来、自分が技術者として他国で仕事をする場合のあり方について、本校卒業生の実例を数例報告し、それをもとに議論し、考える	・前回各自が記入した授業報告書（資料1） ・印刷した写真

授業の詳細

1時限目　ネパールと日本を知る

パワーポイントを使用して何枚かの比較写真を提示し、それをもとに意見を出させる。ある程度意見が出たり議論をしたところで、それぞれの写真の撮影対象と識別ポイントを教員が解説する。この過程を通して、「なぜ同じなのか？なぜ違うのか？」を各個人に考えてもらう。

〈授業の流れ〉

①授業の目的をシラバスにより提示し、何を理解して何について考えるべきかを理解する。
②ネパール、タイ、高知の航空写真から、タイの計画的開発の状況を知る。
③ネパール、タイ、日本のバイクの写真から、適正な商品と適正技術を知る。
④ネパール、タイの自動車の写真から、海に隣接していないネパールの位置と物資輸送を知る。
⑤ネパール、タイ、日本の象の彫物写真から、ネパールの文化と日本の文化の共通性を知る。
⑥ネパールと日本の仏閣建築から、日本とネパールの文化共通性と、多民族国家ネパールの文化多様性を知る。
⑦ネパール、中国のトイレの写真から、それぞれの国の文化の多様性を知る。
⑧ネパールでの食事風景の写真から、ネパールと日本との共通性とネパールの生活を知る。
⑨ネパールと日本の食肉販売状態の写真から、ネパールと日本の衛生状態の違いを知る。
⑩ネパールの山や農村の風景写真から、ネパールと日本の気候や農耕文化の共通性を知る。
⑪ネパールの農産物の写真から、ネパールと日本の気候や農耕文化の共通性を知る。
⑫私が滞在したネパールの一般家庭の写真から、ネパールの生活を知る。
⑬授業の目的をシラバスにより再度提示し、ここまでの授業で何を理解すべきかを再確認させた。

生徒の反応

対象が機械工学科なので、将来就職するであろう製造業関連がテーマだと興味があるだろうと考え、車やバイクの写真を多く取り入れた。写真を見せると同時に想像していた通りの良い反応が返って来た。

日本とネパールの共通点や共有点を多く感じて貰いたかったので、共通点が話題になる写真を多く選んだ。授業時の反応はそれ程無かったが、2時限終了時に記入させたアンケートに文化の共通点についてのコメントが多く寄せられた。

食文化やトイレなど、各自が旅行訪問する際に直面するであろう事柄に対する興味が強かった。

〈所感〉

①同じパワーポイント教材による授業を、各自の卓上に液晶ディスプレイがある教室と、教壇にスクリーンのみの教室とで実施したが、スクリーンのクラスからは、詳しく見難いとの感想が出た。フォトランゲージの場合、写真の細部まで詳しく見る必要があるので、手元で詳しく見る事の出来るディスプレイか印刷物の配布が良い。

②汚い、危険、無駄といった否定的な感想のみに生徒が陥らないように、表現や題材選定には気を付けるべきである。しかし、これらが最大の興味を引く対象であることも事実なので難しい。

2 時限目 ネパールの水事情を知る

パワーポイントを使用して水事情を説明するデータや画像を提示して教員が解説する。要所で説明を止め、データや画像をもとに意見を出させ議論をする。この過程を通して、「なぜそうなるのか？どうすれば良いのか？」を各個人に考えてもらう。

最後に各自が1時限目と2時限目の内容や感想を「キャリア概論報告書」(P51／資料①)に纏めて記入し、考えを文章化することで理解を深める。

〈授業の流れ〉

①授業の目的をシラバスにより提示し、何を理解して何について考えるべきかを理解する。

②ネパールの首都カトマンズの上下水道の現状を具体的数値で理解する。

③カトマンズと四国各県県庁所在都市の上水整備状況比較表から、実感を持ってネパールの状況を理解する。

④カトマンズが直面している水問題の中身を写真から考える。

⑤ネパール全土で現在必要な水道事業の概要を知る。

⑥日本がネパールに対して実施して来た水道事業に対する援助の具体的な状況を知る。

⑦マノハラ浄水場で撮影して来た写真から、設備支援終了後の次に浮び上がる課題について考える。

⑧カトマンズの水道事情を一気に解決するメラムチ計画について、その概要を知る。

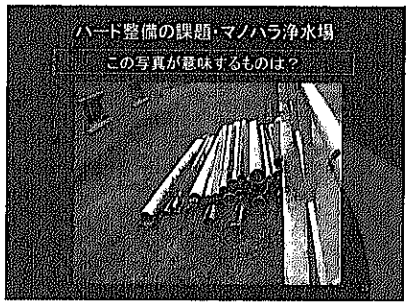
⑨メラムチ計画の進行状況と、今後について知り、ネパールにおける援助の難しさを知る。

⑩ネパールにおける支援の問題をさらに一般化し、他国へ技術支援する場合の適正技術について考える。

⑪さらに考える範囲を広げ、将来企業の技術者として他国に赴いた時の個々の技術者の取組姿勢について考える。

⑫各自が技術者としてネパールへ行く事を想定して、生じるであろう問題点と対応を考える。

⑬授業の目的をシラバスにより再度提示し、ここまでの授業で何を理解すべきかを再確認させた。



生徒の反応

香川県は渇水により断水経験のある地域なので、カトマンズの水事情が身近に感じた様であり、比較データに対して色々な感想や意見が出た。

情報を提示する時に、衛生的でない点に嫌悪感を持たせない様に注意したつもりであったが、結果は表面上の不衛生な面だけに捕らわれた意見を感想として書く者が結構いた。

技術支援のあり方について、授業の趣旨を良く理解してくれたと思われる感想があった反面、全く授業を聞いていなかったと思われる感想もあった。

途上国での技術者の活動のあり方は卒業後に直面する問題であるとの認識を持ってもらう目的であったが、感想の文章によると良くも悪くも意識してもらえた様である。

〈所感〉

①1時限目の写真とは異なり、2時限目は表や数値の提示が多いので最初から集中力を欠いて話を聞こうとしない生徒が数人いるのは悲しいが、これが最近の傾向である。

②画像だけでなく、殆んどの情報をネパールJICA事務所での説明と視察訪問で教えて頂いた。日本にいては得る事が難しい情報が多いので現地へ行く事の大切さを感じた。

3 時限目 技術者像を考える

ネパールで撮影した写真のアルバムを回覧すると同時に、前回の授業で各自が記入した報告書の中から幾つかの感想コメントを匿名で紹介し、将来、機械技術者となった時の心構えと技術者倫理について考えてもらう。

〈授業の流れ〉

①授業の目的をシラバスにより提示し、何を理解して何について考えるべきかを理解する。

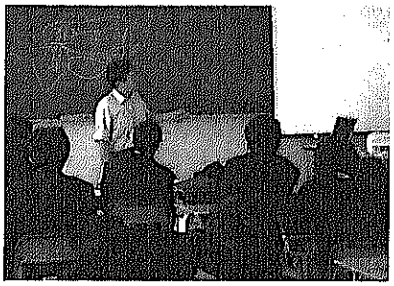
②ネパールと日本の違いについて最も記憶に残ったことのコメントを紹介し、相違点とその理由について考える。

③ネパールと日本の共通点について最も記憶に残ったことのコメントを紹介し、共通点とその理由について考える。

④ネパールの幸せのために、最も必要だと思われる援助や援助の方法についてのコメントを紹介し、国際援助のありかたについて考える。

⑤ネパール以外の国へ本校の卒業生が仕事で滞在している例を数例紹介し、技術者の将来像について考える。

⑥授業の目的をシラバスにより再度提示し、ここまでの授業で何を理解すべきかを再確認させた。



生徒の反応

現在は技術者としての
専門知識だけでなく考え方や人間性が未熟であると感じた者から、今後積極的に考えたいとの意見が出た。

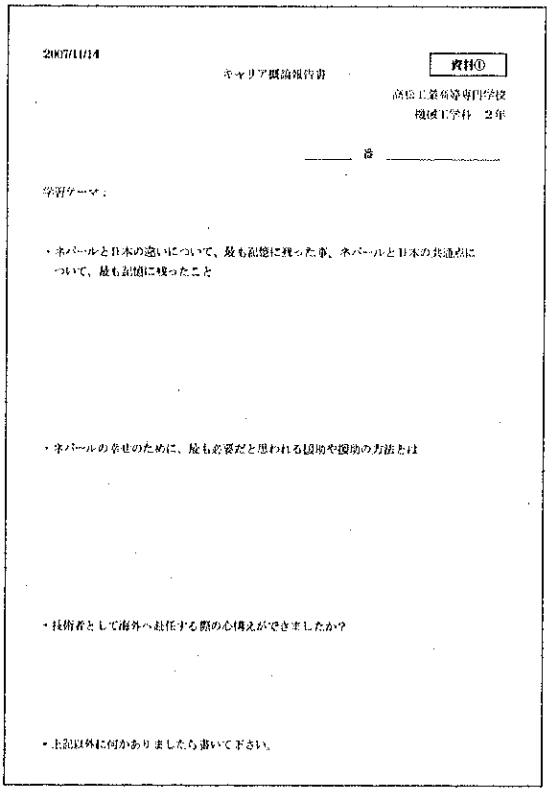
今の技術者としての進路の延長に将来の事を考えたくないという意見もあった。

〈所感〉

①1時限目から2時限目、3時限目と進むにつれてテーマが難しくなり、中身も抽象的になるので、教員側の力不足を感じずにはいられない。期待する成果にまで到達できている生徒の数が次第に減っていると思われる。

②さらに時間を掛けて、ODAやJICAの行っている事業の詳細を伝えることも事前には考えていたのだが、準備や授業時間確保の面で難しかった。

資料①:キャリア概論報告書



2007/11/14

資料①

キャリア概論報告書

高専工業専門学校
機械工学科　2年

＿＿＿ 番 ＿＿＿＿＿＿

学習テーマ：

・ネパールと日本の違いについて、最も記憶に残ったこと、ネパールと日本の共通点について、最も記憶に残ったこと

・ネパールの幸せのために、最も必要だと思われる援助や援助の方法とは

・技術者として海外へ赴任する際の心構えができましたか？

・上記以外に何かありましたら書いて下さい。

成果と課題

ネパールで経験した事とネパールでの経験を通して興味を持って調べた色々な事を17歳や18歳の子ども達にぶつける実践授業を終えました。本報告書の「実践の目的」にも書いております通り、今回の企画に参加する時から考えていた目的が3つありますので、その目的を現時点で私がどれだけ達成できたかを自己評価させて戴きます。

①日本とネパールを比較することによりネパールの実情を知り、ネパールだけではなく世界中の文化が持つ多様性と共通性を理解する。

上記については、私の実体験を通じて感じた生の声や見慣れた地元の景色との比較を積極的に取り込みましたので、議論での発言や感想も多く、多くの生徒が良く理解してくれたのではないかと思っています。甘めですが目的達成度は90点くらいの自己評価です。

②様々な国際協力活動を知り、国際協力活動への理解を高める。

上記については、水道事業に的を絞ってまず理解させ、その後に様々な方面の国際協力について話題を広げる予定でしたが、残念ながら後半部分は時間、情報ともに準備不足でした。達成度は40点くらいの自己評価です。様々な国際協力の現状については現地へ行かなくても情報収集や授業準備ができますので、今回の実践授業で途切れて中途半端にすること無く、今後も取組みたいと思っています。

③経済あるいは技術支援の成果と問題点を理解し、本当に求められている支援について考える力を身に付ける。

上記については、将来技術者となる生徒が対象だったこともあり、支援という枠に捕らわれずに、企業の営利活動による現地生産や技術移転のあり方を視野に入れた話題へ展開しました。これについては、達成度は60点くらいの自己評価です。というのも、問題意識を持って議論に参加した生徒は私が期待するレベル以上に考えを深めてくれましたが、そうでない生徒が少なからずいたことです。国民全員がボランティア活動に進んで参加しないのと同様に、全員が積極的に考えることは難しいのかもしれませんが、このテーマは将来技術者になる生徒が是非とも身に付けて欲しい力です。少しでも多くの者が考えてくれる様に、考えることが当然だと思える状態になるように、今後も地道な啓蒙活動を続ける必要があると感じました。

その他

今回報告する実践授業を実施した他に、内容を少し変えて1年生対象で1時間、高専4年生（大学1年生相当）対象で1時間の実践授業を行ました。また、同一内容で教職員対象でファーカルティ・ディベロップメント（FD）研修を実施する予定です。

参考資料

ネパール研修時ブリーフィング資料
「ネパールの水事情（パワーポイント）」尾嵜昇、徳田小夜子（2007年8月2日）

【参考資料】

独立行政法人国際協力機構とは
(Japan International Cooperation Agency)

前身は昭和49年に国際協力事業団法に基づき設立された特殊法人国際協力事業団で、平成15年10月に独立行政法人化されました。開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的としています。

主な事業として技術協力(専門家の派遣、機材の供与、開発調査等)、青年海外協力隊等のボランティアの派遣、無償資金協力事業の実施促進、災害緊急援助、研修員の受入れ等を実施しています。

JICAはこんなこともじています!!

◎ 中学生・高校生国際協力エッセイコンテスト

開発途上国や国際協力について考えていることを、400字詰原稿用紙4枚以内(中学生は3枚以内)にまとめて応募してください。募集期間は6月～9月で、中学生・高校生とも、特選は独立行政法人国際協力機構理事長賞2名、外務大臣奨励賞1名、文部科学大臣奨励賞1名の各4名で、副賞は約10日間の海外研修旅行です。他にも、準特選、審査員特別賞など多数の賞が用意されています。

なお、年度により内容に変更があることもありますので、詳細についてはJICA四国へお問い合わせください。

◎ JICA国際協力出前講座

開発途上国の実情を知り、国際協力の必要性を理解していただくため、JICAが職員や専門家・青年海外協力隊のOB・OG、研修員などを講師として派遣いたします。講師の謝金および交通費は、原則として依頼団体の負担になります。派遣希望の方は、実施希望日の1ヶ月前までにJICA四国へお問い合わせください。

◎ JICAインターネットホームページ

エッセイコンテストや青年海外協力隊などの各種募集情報、開発教育に関する情報、ニュースレターなど、JICA発信の最新情報が見られるほか、開発途上国に関する情報のデータベースも利用できます。

JICAホームページ　http://www.jica.go.jp/

また、国際協力に関する各種情報を掲載したメールマガジンの配信(無料)も行っています。購読希望の方は、JICAホームページにアクセスし、登録手続きを行ってください。

四国4県のJICA窓口 ～JICA国際協力推進員～

「JICA国際協力推進員」は地域との連携強化を図るために、各都道府県国際交流協会へ配置されています。地方自治体、NGO、教育機関、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役として、地域の特色を活かした国際協力に日々取り組んでいます。

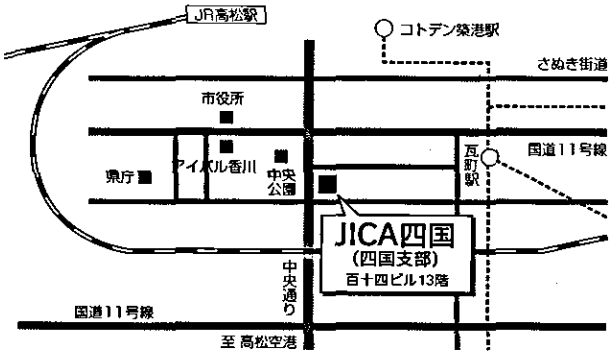
「JICAってどんなことをしてるの？」「青年海外協力隊に参加したい！」「開発途上国について知りたい！」「開発教育ってなに？」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでにがんばってる人、お気軽にあなたの県の国際協力推進員に声をかけてください！

●JICA香川県国際協力推進員　(財) 香川県国際交流協会 〒760-0017 香川県高松市番町1-11-63 アイパル香川内 TEL：087-837-5901　FAX：087-837-5903
●JICA徳島県国際協力推進員　(財) 徳島県国際交流協会 〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F TEL：088-656-3303　FAX：088-652-0616
●JICA愛媛県国際協力推進員　(財) 愛媛県国際交流協会 〒790-0844 愛媛県松山市道後一万1-1 TEL：089-917-5678　FAX：089-917-5670
●JICA高知県国際協力推進員　(財) 高知県国際交流協会 〒780-0870 高知県高知市本町4-1-37 TEL：088-875-0022　FAX：088-875-4929

〈お問合せ先〉

JICA四国（独立行政法人国際協力機構）

〒760-0050　香川県高松市亀井町5-1 百十四ビル13階
TEL：087-833-0901　FAX：087-837-0747
E-mail: jicaskic-edu@jica.go.jp
URL：http://www.jica.go.jp/worldmap/chugoku.html#shikoku



よりよい明日を、世界の人々と。

独立行政法人　国際協力機構 四国支部（JICA四国）

〒760-0050　香川県高松市亀井町5-1　百十四ビル13階
TEL 087-833-0901　FAX 087-837-0747　E-mail　jicaskic-edu@jica.go.jp
http://www.jica.go.jp/worldmap/chugoku.html#shikoku